

2023年3月期

第1四半期

決算補足 説明資料

8月5日



証券コード：8715



全体目次

1

第1四半期 決算概要

2

重点施策の進捗状況

3

APPENDIX

第1四半期 決算概要

1. 全体サマリー（経常収益・経常利益）
2. 損益計算書 サマリー
3. 経常利益の増減要因（対前年同期比分析）
4. 貸借対照表 サマリー
5. 経常費用・利益のパラメータ



経常収益

13,953 百万円

前年同期は13,259 百万円 5.2%増 計画は14,000百万円 0.3%減
うち、保険引受収益：12,506百万円 前年は11,620百万円 7.6%増

経常利益

778 百万円

前年同期は698 百万円 11.5%増 計画は800百万円 2.7%減

コロナ禍におけるペット飼育需要は落ち着きを見せる一方で、今後の飼育需要や保険金の動向については引き続き注視が必要

■ 経常収益（対前年同期比）

- 4 - 6月の新規契約件数は**5.3**万件、同保有契約件数は**104.9**万件（**10.3%**増）と**堅調な伸長を継続**
- 飼育需要の落ち着き等の影響により、シムネット社のブリーダーマッチングサイト成約数や遺伝子検査数等が抑えられ、その他経常収益は**1,314**百万円（4.4%減）に
- 資産運用収益は、**132**百万円（49.6%減）となったが、世界的な金融引き締めの下で、**計画達成の進捗**

■ 経常利益（対前年同期比）

- 保険引受収益や資産運用収益は概ね計画通り。他方、保険金の増加やその他経常収益の減少により、計画比では2.7%減と若干の未達
- 今後の飼育需要や保険金の動向を注視し、引き続き理想的な損害率の実現、代理店手数料率、販売管理費率の改善に努めていく

2. 損益計算書 サマリー

決算概要

重点施策

APPEN
DIX

(百万円)

	22年3月期 1Q	23年3月期 1Q	対前年同期比 増減率
経常収益	13,259	13,953	5.2
保険引受収益	11,620	12,506	7.6
資産運用収益	263	132	△ 49.6
その他経常収益	1,375	1,314	△ 4.4
経常費用	12,561	13,175	4.9
保険引受費用	8,502	8,889	4.6
・ 正味支払保険金	(6,168)	(6,691)	8.5
・ 損害調査費	(275)	(278)	1.0
・ 諸手数料及び集金費	(1,299)	(1,277)	△ 1.7
・ 支払備金繰入額	(126)	(166)	32.2
・ 責任準備金繰入額	(631)	(474)	△ 24.9
(うち未経過保険料)	(564)	(455)	△ 19.3
(うち異常危険準備金)	(67)	(18)	△ 71.9
資産運用費用	33	0	△ 100.0
営業費及び一般管理費	3,608	3,852	6.8
その他経常費用	417	432	3.6
経常利益	698	778	11.5
純利益	486	497	2.2

■ 主な勘定科目の増減理由

① 保険引受収益

▶ 対前年同期比で、保有契約件数が**97,609件増加（10.3%増）**、新規契約件数が**6,772件減少（11.2%減）**

② 資産運用収益

▶ 価格変動が激しい運用環境下、保有する資産のインカムを中心に運用収益を確保

③ その他経常収益

▶ 動物病院等は拡大する一方、遺伝子検査やその他の減収等が影響し、対前年同期比減少

④ 正味支払保険金

▶ 通院頻度の高い状況が継続していることなどにより、支払保険金が増加

⑤ 諸手数料及び集金費

▶ 販売チャネルの多様化や効率的な契約獲得により代理店手数料率が改善

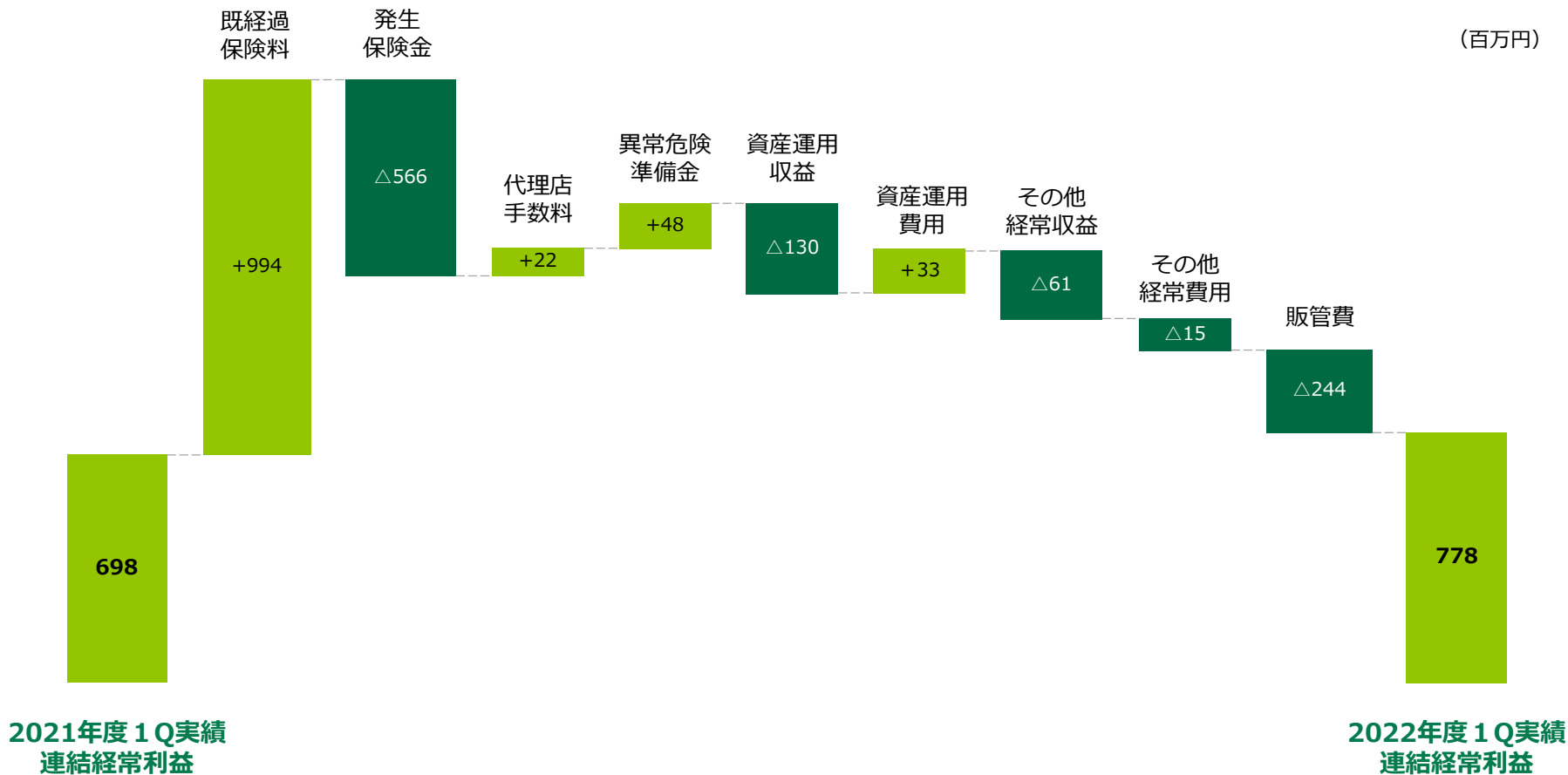
（参考）アニコム損保 保険重要指標

	22年3月期 1 Q	23年3月期 1 Q	(百万円) 対前年同期比 増減率
既経過保険料	11,097	12,093	9.0%
発生保険金（損害調査費含む）	6,570	7,137	8.6%
E/I損害率①	59.2%	59.0%	△0.2pt
既経過保険料ベース事業費率②	38.6%	35.5%	△3.1pt
コンバインド・レシオ(既経過保険料ベース)①+②	97.8%	94.5%	△ 3.3pt

保険引受収益の堅調な増加に加え、代理店手数料率の改善等が寄与し増益

※1 既経過保険料 = 保険引受収益 - 普通責任準備金繰入額 (未経過保険料)
 ※2 発生保険金 = 正味支払保険金 + 支払備金繰入額
 ※3 異常危険準備金 = 異常危険準備金繰入額 + 異常危険準備金戻入額

(百万円)



(百万円)

	22年3月期末	23年3月期 1Q	対前期末比 増減率
資産合計	58,635	58,757	0.2
現金及び預貯金	29,641	27,692	△ 6.6
有価証券	16,570	18,468	11.5
固定資産	6,020	5,937	△ 1.4
その他資産	6,402	6,659	4.0
負債合計	31,319	31,850	1.7
保険契約準備金	21,297	21,939	3.0
うち支払備金	2,705	2,872	6.2
うち責任準備金	18,592	19,067	2.6
社債	5,000	5,000	－
その他負債	5,021	4,910	△ 2.2
純資産合計	27,316	26,907	△ 1.5
株主資本	27,658	27,954	1.1
評価・換算差額等	△ 342	△ 1,045	－
負債・純資産合計	58,635	58,757	0.2

■ 主な勘定科目の増減理由

① 有価証券

➢ 債券等のインカム資産への投資を拡大

② 社債

➢ 2020年9月の第1回無担保社債の発行により調達

③ 評価・換算差額等

➢ その他有価証券評価差額金の減少

5. 経常費用・利益のパラメータ

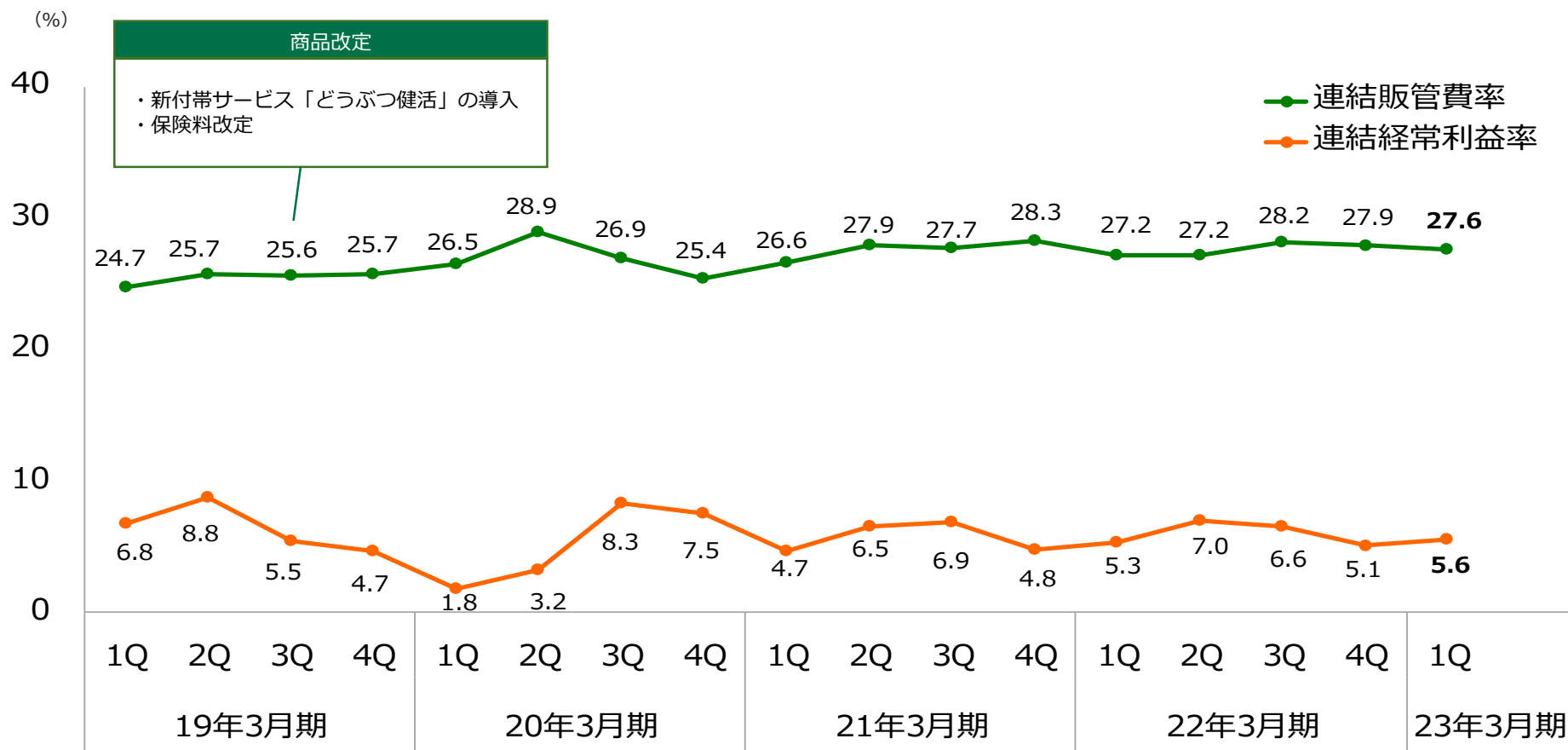
※販管費率、経常利益率（連結）

決算概要

重点施策

APPEN
DIX

※ アニコム損保単体の経営パラメータ（損害率・事業費率・契約件数）はAPPENDIX参照



重点施策の進捗状況

1. 重点施策の進捗状況 (保険事業・資産運用)
2. 重点施策の進捗状況 (シナジー創出事業)
3. トピックス



保険事業

新規・保有契約の状況

- 新規契約獲得件数は4-6月で、**5.3万**件超に
22年6月末の保有契約件数は**104万**件を突破

販売チャネルの拡大・強化

- シムネット社との連携強化により、ブリーダーチャネルにおける新規契約も順調に拡大中
- 法人代理店を中心とした販売チャネルの更なる拡充を推進中
- WEB広告の強化による獲得件数への寄与が拡大

販売チャネルの拡大・強化を通じて、保険事業における
効率性向上・費用改善を推進
⇒リアルとネットの融合を強力に推進しながら、
効率的に契約を獲得

商品・サービスの拡大

- 「どうぶつ健活」の堅調な増加が寄与し、4-6月も
継続率は87.8%と高いレベルで安定

損害率、代理店手数料率、販売管理費率の改善

- **損害率の改善 (1Q実績 : 59.0%)**
コロナ影響は落ち着きつつあるが、保険金は2Q以降も注視
損害率改善施策を引き続き推進中
 - ・ 保険診療推奨フローチャートの普及促進による診療の適正化、
優良病院の案内
 - ・ 予約機能を活用した優良病院への送客の強化
- **代理店手数料率の改善 (1Q実績 : 10.2%)**
ブリーダーチャネルの拡大や一般チャネルの多様化等により、
前年1Q対比で1%の大幅改善
- **販売管理費率の改善 (1Q実績 : 27.6%)**
 - ・ 給付業務における直接請求件数及び処理単価の削減
 - ・ 各種手続きの省力化、帳票コストの削減

資産運用

➤ **柔軟かつ機動的な資産運用により、4-6月の進捗は順調**
市場リスクが高い運用環境において、含み損益・リスク量・運用余資の観点からリスクを抑制しながらも収益を追求

➤ **ブリーディングサポートの一環として事業用不動産（石川県白山市での「しっぽの郷」プロジェクト）を展開予定**
ブリーディング、シェルターなどの場所を提供。賃料収入を獲得

➤ **ペット共生住宅「アニコフローラ東中野」は好評満室稼働中**



その他

➤ **ペットの写真から病気を予測するシステム他、22年6月末までに34件の特許を出願（昨年6月末から18件増加）**

➤ **「従業員一人一特許戦略」の推進**

保険事業だけでなく、画像認識AI、フード・腸内フローラ、再生医療等の従業員一人一人の琴線に触れる事業を展開してきた結果、2020年12月末時点の発明者数13名⇒**2022年6月末時点で78名にまで増加（22年6月末連結社員数926名）**

【分野別 出願・特許登録件数】

	画像認識AI	遺伝子 フード・腸内フローラ	再生医療	その他
出願件数	16	10	3	5
特許件数	2	1	2	1

注) 出願件数には優先権主張出願及び分割出願を含み、海外出願は含まない



➤ **AI&データベース（どうぶつ住民基本台帳）構築**

- ・ 出産、発情を検知するためのデータ収集
- ・ 収集した動画からの検知AIモデルの開発とカメラへの搭載

産まれる前から

川上



遺伝子検査事業の拡充

- 4-6月の遺伝子検査検体数累計 **2.5万件超**
- ジャック・ラッセル・テリアの消化管ポリポーシスの遺伝子検査を開始 (7.18)
- 性格(行動)、品種、毛色、体質、親子判定などを一度に測定可能にするパネル検査を実装開始

シムネット社の2022年度4-6月業績

■ 売上高	:	459 百万円
■ 経常利益	:	17 百万円
■ 経常利益率	:	3.7%

注) 経常利益数値はのれん償却前

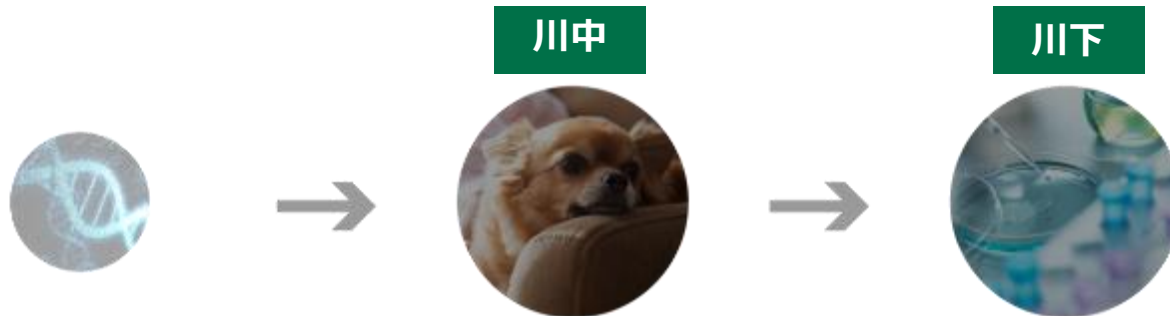
**みんブリ・みん猫登録ブリーダーの活用により、
ブリーディングサポートを拡大中**

ブリーディングサポートの強化

動物愛護法の改正も踏まえ、各ブリーディングサポートを強力的に推進中

- **遺伝子検査** ⇒ 繁殖効率向上に繋がる検査とマッチングサービスの開発 (出産頭数が多い生体の遺伝子情報の解析等)
- **技術開発** ⇒ 交配適期検知手法の開発、幹細胞活用、凍結精子利用技術向上に向けた研究等
- **医療サポート** ⇒ 往診サービスエリアを拡大し好感触 (定期健康診断、マイクロチップ挿入等)
- **販売サポート** ⇒ ブリーダー直売サポートセンターの拡大 (引渡頭数が順調に増加、成約率も高水準に)
- **事業支援** ⇒ 当社Gフードを推奨するブリーダーが拡大、繁殖管理システムの開発・トライアル開始、ブリーディング場の提供 (賃貸) 等
- **引退犬猫の譲渡支援**
⇒ ani TERRACEでの引取り・飼育・譲渡が開始 (譲渡実績あり)
ドッグラン・ペットホテルを活用した集客も開始

日々の暮らし ~ 治らないを治す



健康診断+フード・商材等の事業化

- 4-6月のどうぶつ健活申込累計 **5.2万件超**
- 「きみのごはん」(DNA、腸内フローラ) シリーズを販売中
検査により発見されたリスクに対し、有効成分を配合したフードをOne to Oneで提供
保険契約者限定の腸内フローラフードは、サンプル配布後の購入は好感触 (購入率3~4%)
- 新フード「みんなのごはん」を販売開始
ブリーダーチャネルを中心に展開



動物医療関連(予防~一般・再生医療)

- 直営動物病院は57病院(手術対応可能14病院)となり、順調に拡大
- 動物再生医療技術研究組合(再生医療普及のために当社Gが中心になって設立した組合)には、**6月末時点で463の動物病院が加入。2022年度で300投与超えを目指す**(2021年度は約200投与)



動物再生医療技術研究組合
Research and Development Partnership for Animal Regenerative Medicine

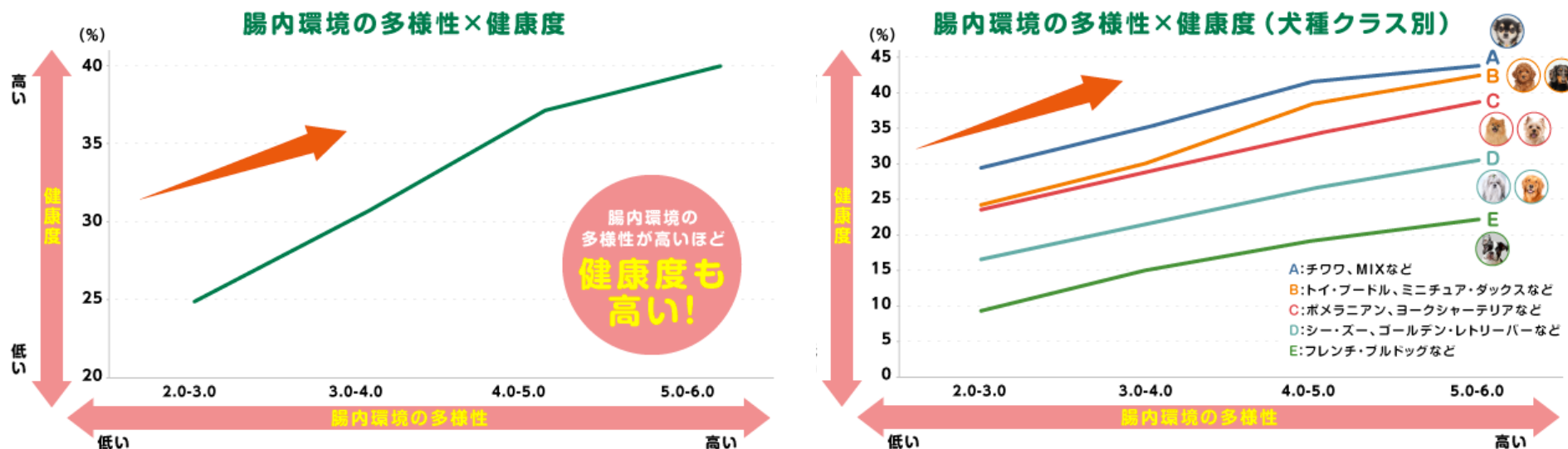


社会課題の解決 (ESG活動)

- 保護動物のシェルター施設 "ani TERRACE" オープン (三重県「VISION」内 4.29)
- 災害支援に関する取組み
静岡土砂災害で被災した犬32頭を救助 (6月)
- 動物福祉の普及啓発活動
直営動物病院での獣医師体験など、子供たちへの教育支援を実施



保険会社が遂に発見！ “腸内細菌による健康度の違い”



(N=76,540/対象期間：2019年7月～2022年4月)

※腸内環境の多様性：「Shannon Index」という指標を用いて表現した腸内細菌の多様性をいいます。

※健康度：本稿では、対象となる保険契約のうち保険金請求のなかった契約の割合を「健康度」と表しています。個々のどうぶつと疾病との関係を示すものではありません。

(集計対象契約：対象期間中にペット保険の付帯サービスである『どうぶつ健活(腸内フローラ測定)』を実施した0～3歳のどうぶつを対象とし、特定の傷病(骨折、誤飲)による保険金請求があったどうぶつは除外しています。)

健康度は先天的な要素(犬種などの遺伝的要素)のみで決定しているわけではなく、後天的な要素(フード、環境、生活習慣など)によっても変化するものであり、腸内環境を改善することでペットの健康度を高められる

ペット保険を通じて蓄積してきたデータと腸内フローラ測定結果、遺伝子検査の結果等を活用し、「予防」に関する取組みを加速。フード事業をより一層推進

20年にわたり積み上げた「保険×遺伝子」のビッグデータを活用 腸内環境の多様性アップにも拘った保険会社グループが開発したフード

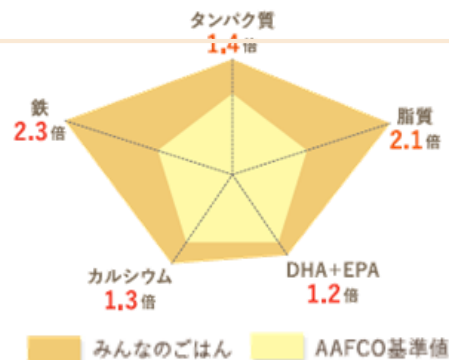
みんなの
ごはん



●犬種別の“にがて”を補う成分を特別配合!

<p>トイプードル</p> <p>胃腸の動きをサポート</p>	<p>オリゴ糖</p> <p>「糖三糖」の栄養源となる成分。腸内細菌叢のバランスを整えて胃腸の健康を維持します。</p>	<p>オオバコ種皮</p> <p>水溶性・不溶性の食物繊維を多く含み、腸内環境を健康に保ちます。</p>
<p>チワワ</p> <p>強い骨格作りをささえる栄養</p>	<p>BCAA</p> <p>バリン、ロイシン、イソロイシンという必須アミノ酸の総称。運動時の筋肉のエネルギー源となります。</p>	<p>グルコサミン</p> <p>コラーゲンの素となり、新たな軟骨の形成に関与します。人でも関節の健康維持用サプリメントに多く使われています。</p>
<p>柴犬</p> <p>眼の健康を維持するために</p>	<p>アスタキサンチン</p> <p>抗酸化作用とピント調節機能を持ち、眼の健康維持に役立ちます。</p>	<p>トコトリエンール</p> <p>強い抗酸化作用を持つビタミンEの一種で、眼を健康に保ちます。</p>
<p>ミニチュアダックス</p> <p>代謝・免疫機能の維持のために</p>	<p>ルテイン</p> <p>抗酸化作用や、免疫機能を維持するはたらきをします。</p>	<p>エルゴチオネイン</p> <p>抗酸化作用を持ち、活性酸素のはたらきをおさえます。</p>

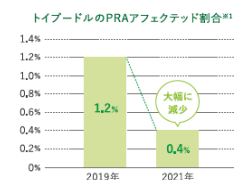
etc...



食いつき率
94%!※

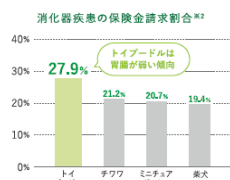
研究開発力

進化し続ける
遺伝子検査



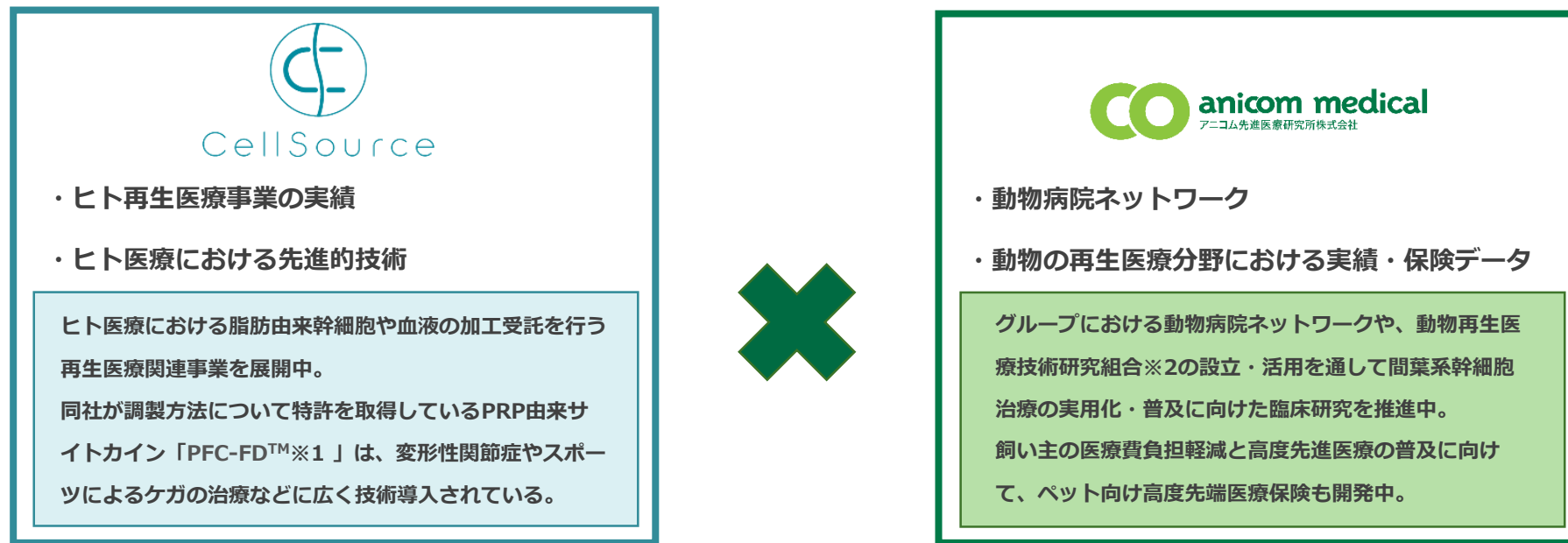
ビッグデータ

長年蓄積した
保険データ



×

ヒト再生医療関連事業を展開するセルソース株式会社との業務提携を発表（6.13）



【業務提携による具体的な取組み】

- 血液加工技術等を利用した動物向け治療法の開発
- 動物向け次世代再生医療の検討および開発等

まずはイヌ由来の血液加工技術等の確立と、当該技術の実用化・普及を目指し、

さらに血液加工技術等を利用した治療方法以外の次世代再生医療技術の開発や、高度先端医療に対応した保険開発も検討

※1：PFC-FD：フリーズドライ化した血小板由来因子濃縮物のこと。血液から作製したPRPの成長因子の濃度を高め、無細胞化とフリーズドライの処理を施し、室温での長期保存を可能にしたもの。「PFC-FD」を用いた治療においては手術不要であり、患部に投与することで疼痛軽減や機能回復の効果が期待されます。なお、PFC-FDはセルソースの商標です。

※2：動物再生医療技術研究組合：未だ確立されていない飼育動物（イヌ・ネコ）向け細胞治療サービスについて、各プロセスを標準化し、あらゆる診療施設の獣医師が、安全かつ有効な細胞治療サービスを提供できる仕組みの実用化を目的とした、産学官の連携を柱に共同研究を行う非営利公益法人。2019年12月10日設立。

APPENDIX

1. 主要経営パラメータ
2. アニコム損保単体：経常収益のパラメータ
(ペット保険新規契約獲得件数／保有契約件数の推移)
3. アニコム損保単体：経常費用のパラメータ
(損害率 (E/I) 、既経過保険料ベース事業費率)
4. 保険事業以外の事業の収益機会と
ペット保険のシナジー相関



1. 主要経営パラメータ

決算概要

重点施策

APPEN
DIX

	22年3月期 1Q	22年3月期末	23年3月期 1Q	対前年同期比		対前期末比		23年3月期末 (5月11日予想)
				件数	率	件数	率	
① 保有契約数	952,078 件	1,028,831 件	1,049,687 件	97,609 件	10.3 %	20,856 件	2.0 %	1,120,000 件
② 新規契約数	60,730 件	229,099 件	53,958 件	△6,772 件	△11.2 %	-	-	232,000 件
③ 継続率	87.6 %	87.8 %	87.8 %	-	-	-	-	87.8 %
④ 保険金支払件数	972 千件	4,019 千件	1,026 千件	54 千件	5.5 %	-	-	4,268 千件
⑤ 対応動物病院数	6,587 病院	6,681 病院	6,717 病院	130 病院	2.0 %	36 病院	0.5 %	6,790 病院

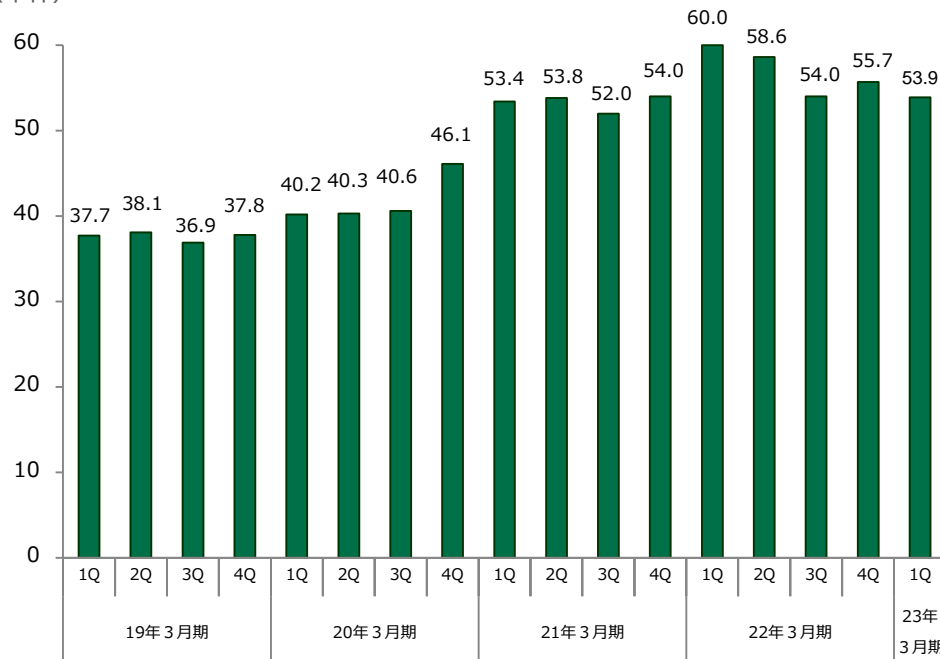
	22年3月期 1Q	23年3月期 1Q	対前年同期比 増減率	23年3月期末 (5月11日予想)
⑥ E/I損害率	59.2 %	59.0 %	△0.2 pt	58.1 %
⑦ 既経過保険料ベース事業費率	38.6 %	35.5 %	△3.1 pt	35.9 %
⑧ コンバインド・レシオ(既経過保険料ベース)	97.8 %	94.5 %	△3.3 pt	94.0 %

	22年3月期末	23年3月期 1Q	対前期末比 増減率	23年3月期末 (5月11日予想)
⑨ 単体ソルベンシー・マージン比率	334.6 %	319.4 %	△15.2 pt	320 % 前後

	22年3月期 1Q	23年3月期 1Q	対前年同期比 増減率
⑩ どうぶつ健活(腸内フローラ測定)申込数	45,947 件	52,309 件	13.8 %
⑪ 遺伝子検査検体数	28,256 件	25,662 件	△9.2 %

新規契約獲得件数の四半期推移

(千件)

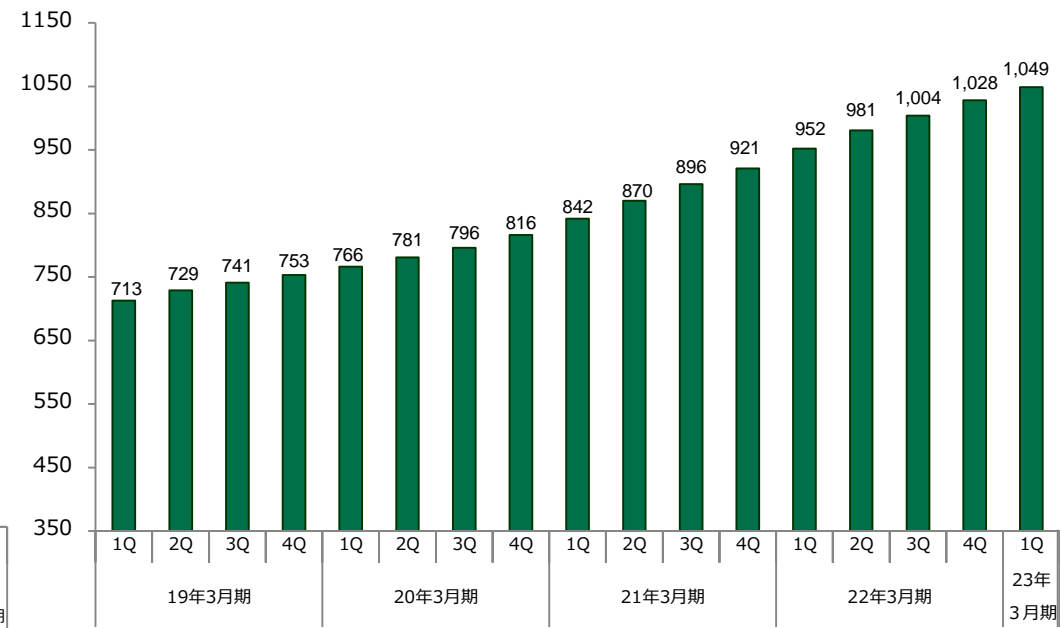


新規契約獲得は堅調

NB・一般チャネル合わせて5万件を超え、年間計画23.2万件に対して23.3%の進捗率で推移

保有契約件数の四半期推移

(千件)



保有契約件数

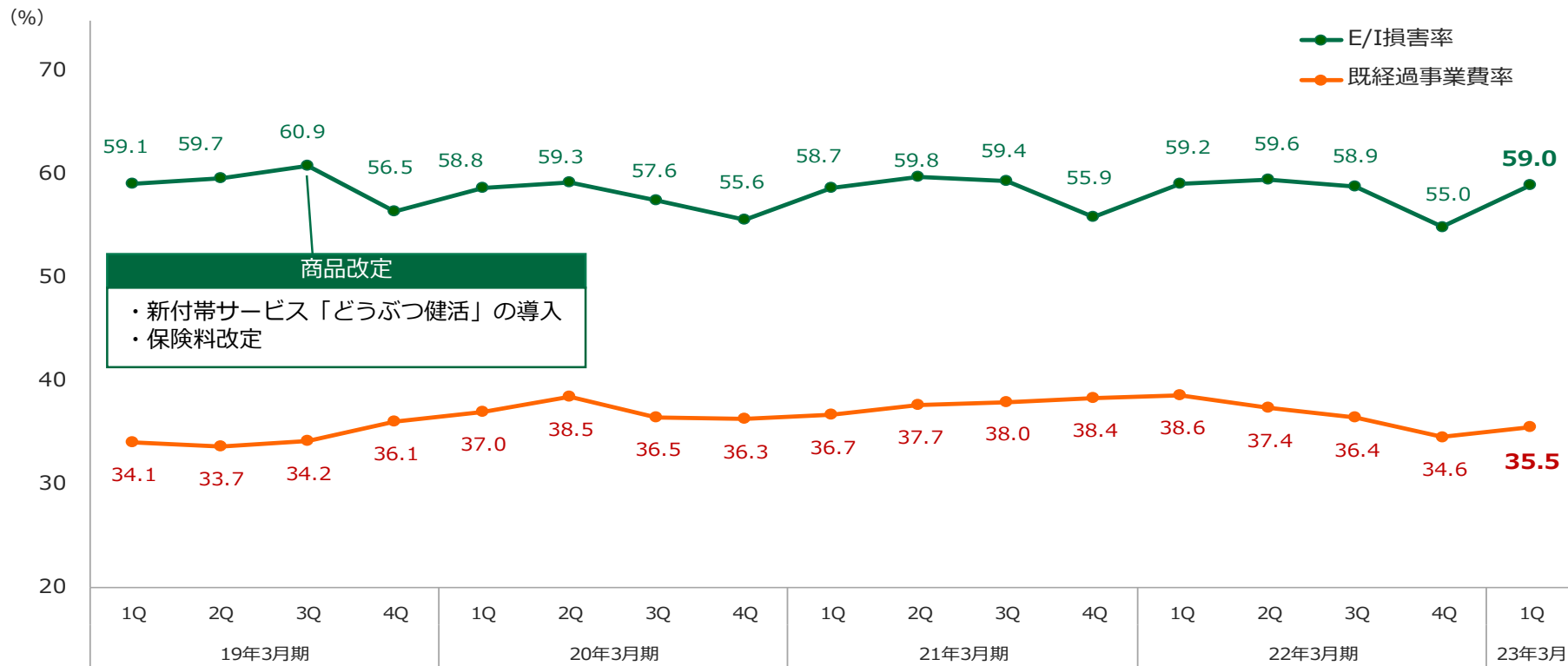
104.9万件となり、年間計画112万件に向けて順調に推移

3. アニコム損保単体:経常費用のパラメータ

【参考情報】

- 15年3月期 1Q ■ 保険料改定
・平均12%の改定
- 15年3月期 3Q ■ 限度日数付き新商品
■ 健康割増引制度導入
- 18年3月期 2Q ■ 保険料率改定
・8歳以上の保険料改定

注1) 下表は、四半期毎の平均値を記載しておりますので、当期累計平均とは異なります。
注2) 事業費率は「既経過保険料ベース事業費率」(損保事業費÷既経過保険料)を表しております。



E/I損害率について

20年度からの新規契約獲得件数の大幅な増加により、商品ポートフォリオの改善が進む一方、コロナ禍の行動変化の影響による通院頻度の増加や、保険金単価の上昇により発生保険金が増加し、高止まり傾向が継続していたが、足元はそうした変化の影響も徐々に安定化への動きを確認

事業費率について

事業拡大に向けた積極投資の継続、独自サービスである「どうぶつ健活」のコスト増、新規契約件数の増加及びNBチャネルの競争激化に伴う代理店手数料の増加等の影響で上昇傾向が続いていたが、足元では、販売チャネルのシフトをはじめ、保険の効率性向上や費用改善施策の効果が発現

どうぶつの
ライフステージ

シナジー創出
事業の収益機会

保険事業への
寄与

資産運用

展開

川上



遺伝子

- ・遺伝子検査事業

交配・出産

- ・マッチングサイト
- ・ブリーディング支援
- ・精子バンク

ペットショップ

- ・しつけサービス提供
- ・遺伝子検査証明書の発行

- ・遺伝子ベースの保険料設計や引受診断
- ・新生児チャネルを拡大
- ・遺伝病減少にともなう損害率低下

川中



日々の暮らし

- ・フード開発と販売
- ・他企業との連携

健康診断

- ・腸内フローラ測定事業
- ・保険新サービス付帯

一次診療(一般診療)

- ・電子カルテ拡販
- ・一次動物病院運営(海外含)
- ・予約送客事業

- ・保険の付加価値を向上
- ・生活習慣病予防による損害率低下
- ・企業集団の獲得

川下



二次診療(先進医療)

- ・再生医療提供
- ・二次動物病院運営

お別れ

- ・ペット霊園紹介
- ・終生飼育施設

- ・重症化予防による損害率低下
- ・難病治療の確立に伴う損害率低下
- ・高齢者等の飼育に対して裾野を拡大

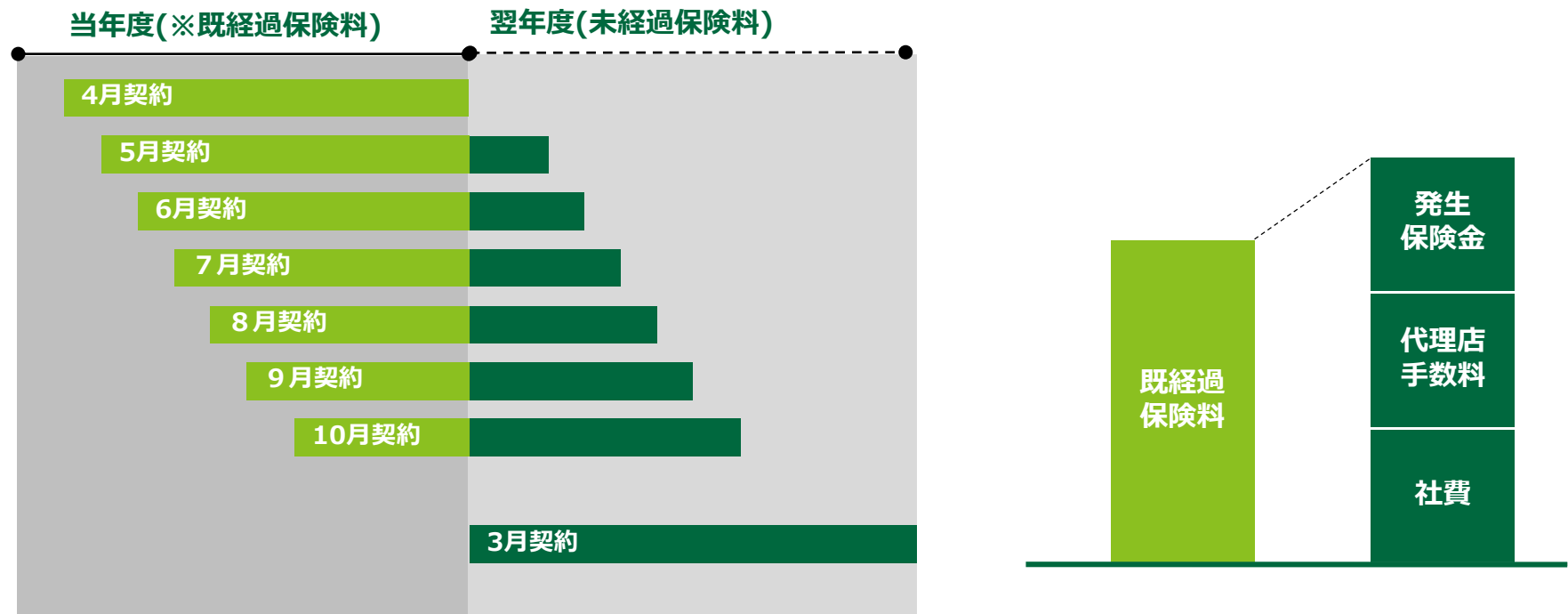
資産運用(不動産運用)による下支え

ビッグデータの構築と活用

(参考) 保険会計が経常損益に与える影響

1. 保険料の増加が経常損益に与える影響(日本の損保会計ベース)

一般的に、保険料の増加は経常収益の増加に寄与しますが、事業年度における保険料の未経過期間部分については、普通責任準備金（未経過保険料）として次年度に繰り越すことが法令により定められています。一方で、発生保険金、代理店手数料、社費等の費用については、保険料の増加に対応する費用を含め、これらの費用が発生する年度において計上することとされています。したがって、保険料の増加に伴い増収となる場合であっても、当該費用が既経過保険料を超過する場合は、当該年度の経常損益にマイナスの影響を与えることとなります。



2. 異常危険準備金が経常損益に与える影響 (日本の損保会計ベース)

- ・異常危険準備金は、巨大災害等が生じた場合の保険金の支払いに備えるために法令により積み立てておくこととされているものであり、各保険会社が毎期積み立てを行っているものです。
- ・異常危険準備金は、正味損害率（※）が50%を超えると取崩し（費用のマイナス）が行われます。（※）正味支払保険金を正味収入保険料で除した割合です。



お問合せ先

アニコム ホールディングス株式会社 経営企画部（IR事務局）

東京都新宿区西新宿8-17-1 住友不動産新宿グランドタワー39階
URL : <https://www.anicom.co.jp/>

本資料に関する注意事項

本資料は、現在当社が入手している情報に基づいて、当社が本資料の作成時点において行った予測等を基に記載しておりますため、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。

本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、一定のリスクや不確実性を内包しております。そのため、将来の実績が本資料に記載された見通しや予測と大きく異なる可能性がある点をご承知おきください。

従いまして、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。

なお、本資料は情報提供のみを目的としたものであり当社が発行する有価証券への投資の勧誘・募集を目的としたものではありません。